「ともに輝く情報誌」

ウィルプラス

WILL PLUS

No.74 2012 編集・発行 公益財団法人あいち男女共同参画財団

特集 男性の共同参画

◆巻頭寄稿は
お茶の水女子大学　石井クンツ昌子教授の、
「本当にイクメンは育っているのか」
イクメンという言葉の広がりと実態、育成に必要なことなど、
ワーク・ライフ・バランスの専門家がその豊富な研究の中から、
分かりやすく解説します。

◆団体紹介は
愛知県地域活動連絡協議会・みらい子育てネットです。
地域の子育て支援活動を中心に、加藤会長にお話を伺いました。

◆フロムあいちは
男女共同参画室作成のＤＶＤをご紹介します。
イクメン、カジダンの進化形「共同メン」。
男性向けＤＶＤの中身は?

◆情報ライブラリーからは
図書の紹介 ～男の生き方、これから～
ポイントカードのご案内もあります

◆ウィルあいちフェスタ2012
11月恒例！
ウィルあいちフェスタのお知らせです

◆男女共同参画まんが　ウィルおじさん

◆愛知県女性総合センターのご案内

愛知県女性総合センター（ウィルあいち）のご案内

開館時間

9:00～21:00
●情報ライブラリー利用時間
9:00～19:00

休館日

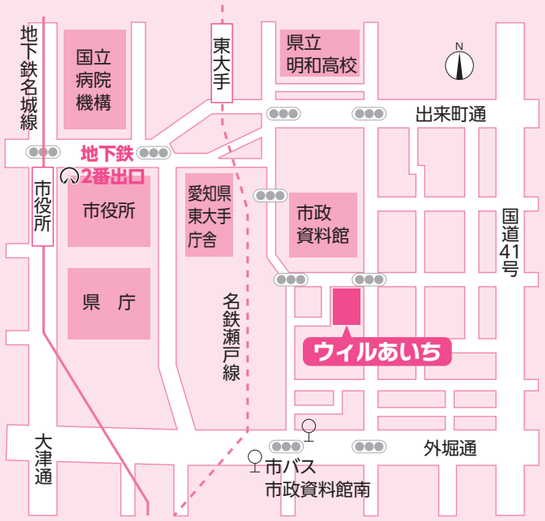
年末年始（12月29日～1月3日）、施設点検日（年10回程度）
●情報ライブラリー休業日
上記の他、毎週月曜日（祝日の場合は翌日も休業）、
祝日（土日は除く）、整理期間

所在地・お問い合わせ先

〒461−0016　名古屋市東区上竪杉町1番地
http://www.will.pref.aichi.jp/
●施設利用受付　指定管理者　コングレ・愛知グループ
（ホール・会議室・宿泊室）　電話 052-962-2511
●情報ライブラリー　電話 052-962-2510

交通のご案内

○地下鉄名城線「市役所」駅2番出口東へ徒歩約10分
○名鉄瀬戸線「東大手」駅南へ徒歩約8分
○基幹バス、名鉄バス「市役所」下車東へ徒歩約10分
○市バス幹名駅1「市政資料館南」下車北へ徒歩約5分
○駐車台数に限りがありますので公共交通機関の利用にご協力ください。（駐車場有料）



編集後記

○今回の「ウィルプラス」はいかがでしたか?あなたのご意見ご感想を（公財）あいち男女共同参画財団企画協働課までお寄せください。
○「ウィルプラス」は、県内の図書館や女性センター等で配布しています。ホームページからもご覧いただけます。また、定期読者も募集しています。詳しくは電話でお問い合わせください。

ウィルプラス No.74 2012

編集・発行	公益財団法人あいち男女共同参画財団
住　所	〒461−0016　名古屋市東区上竪杉町1番地（愛知県女性総合センター内）
電　話	052−962−2512（企画協働課）
F A X	052−962−2477
発　行	平成24年5月（年3回／次号発行予定:8月）

特集

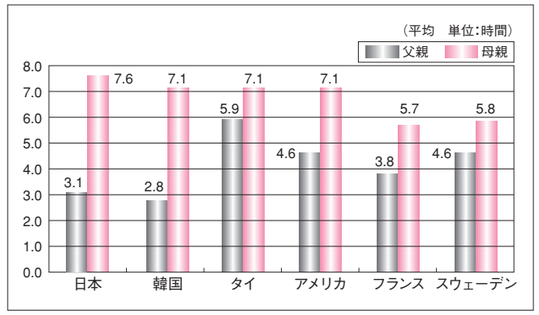
本当にイクメンは育っているのか

お茶の水女子大学　大学院人間文化創成科学研究科　教授　石井クンツ昌子

最近、よく目にする「イクメン」や「カジダン」の言葉。男性に求められているものが多様化する現代社会の中で、その実態や育てるための方法について、石井クンツ昌子教授に執筆していただきました。

「イク（育）メン」は2010年度の流行語大賞トップテンに入るなど、頻繁に聞く言葉になりました。それに伴いイクメングッズが販売され、イクメンを対象とした雑誌も発刊されるなど、日本では男性の育児・子育て参加が一躍注目を浴びているようです。しかし、その一方で、2010年度の雇用均等基本調査（厚生労働省）によると、父親の育児休業取得率は1.38%であり、母親の取得率（83.7%）と比べるとかなり低いのが現状です。また、アメリカ、スウェーデン、フランス、タイと比較すると日本の父親が子どもと一緒に過ごす時間は短く、日本の父親と母親の格差は4.5時間と上記の国々や韓国よりも大きいことがわかります（図1）。

図1　父親と母親が子どもと一緒に過ごす時間の国際比較



資料：国立女性教育会館「平成16年度・17年度家庭教育に関する国際比較調査」

なぜ、今、イクメンなのか

イクメンという言葉は近年になり広まりつつありますが、このような表現はなかったものの、育児や子育てを積極的にする男性はこれまでも存在していました。日本では1992年に育児休業法の大幅な改正が行われ、初めて父親も育児休業を取れるようになりました。また、それ以前にも育児に関わりたい男性を中心としたネットワークやサポートグループができるなど、育児・子育てにいそしんできたお父さんたちは少なからずいました。

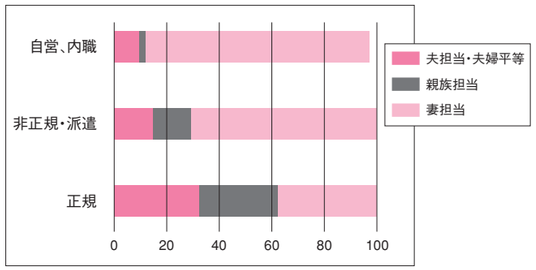
それでは何故、今、イクメンがもてはやされているのでしょうか。第一に厚生労働省の「イクメンプロジェクト」に見られるように、日本では少子化対策の一環として政府が男性の育児・子育てを近年になり啓発してきたことが上げられます。第二に、「男らしい男性」イメージを崩壊させた「草食系男子」、あるいは「弁当男子」「手芸男子」など従来女性が行ってきたことをする男性たちがマスコミなどで注目されてきたことが上げられます。つまり、現代の日本では社会的・文化的な性差による押しつけから比較的に自由になりたい人たちが増え、その結果、育児をする父親を含む多様な男性像が受け入れられつつあると言えます。第三に、職場に対する不満が大きい父親ほど、家事や育児を行っているという研究結果もあり、長引く不景気の中で一部の労働者に「家庭回帰」現象が見られるということです。

これらの背景を基に、これまでの男性の育児参加は妻への補助であったのに対して、近年はもっと積極的に育児にかかわりたい男性が増えてきており、その結果、イクメンが注目されてきていると思います。このイクメン現象が一時的なものなのかどうかを現時点で判断するのは難しいですが、多くの男性が育児に対する意識を変えるだけではなく、行動に移していかなければ一過性のもので終わってしまい、男女共同参画に長期的に寄与していくのは難しいかもしれません。

イクメンは育っているのか

イクメン現象を長続きさせるためには、イクメンを育てていくことが必須です。上述した職場に対する不満以外にも、妻が正規雇用に従事している場合（図2）、男性が家庭に居る時間が長い場合（労働・通勤時間が短い）、あるいは夫婦の学歴差や収入差があまり無いほど、日本の夫婦が平等に育児や家事を行っている確率が高いことが様々な研究から明らかになっています。つまり、社会構造的には夫と妻の雇用状況、学歴や収入などが男性の子育て参加の規定要因なのですが、これらの要因はイクメンを育てるというよりも、あくまでもこのような条件が整っていれば、父親の育児参加確率は高くなるであろうということです。

図2　妻の就業形態別　家事・育児分担（%）



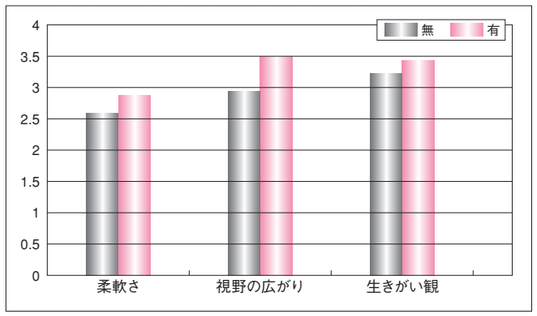
出典：厚生労働省　仕事と生活調査　2005年より筆者作成

イクメンを育てるためには、やはり、青少年期からの長期的な育児・子育てに関する教育が必要です。その中で私が注目しているのは家庭科教育です。この科目は中学校では1993年から、高校では1994年から男女共修となり実施されてきました。私が提唱するのは従来の被服、食物、技術、機械以外にも「家事分担」や「子育て」など家庭生活に関する実践的な内容をもっと積極的に取り入れていくことです。例えば、アメリカの高校では保健科目でコンピューターベイビー（写真）を使い、育児についての教育を行っています。この実寸大のコンピューターベイビーにはチップが埋め込まれており、夜中も含めて数時間ごとに泣くように設定されています。このベイビーを一週間程度「面倒」を見ることが課題ですが、赤ちゃんの泣き声に反応するのにどの程度の時間を要したかは全てチップ内に記録されていて、早い反応であればあるほど、成績が良くなるということになります。この課題を経験した85%のアメリカの高校生たちが、子育てについてとても多くのことを学んだと言っています。このような実践的な教育を取り入れていくことができたならば、青少年期から長期的な視点でイクメンを育てていくことが可能になると思います。

コンピューターベイビーを使った教育

イクメンがもたらすものは多くあります。積極的に育児や子育てに関わってきた父親を持つ子どもは情緒性、社会性、自発性、独立意識や自尊感情が高いという研究結果があります。また、夫が子育てに積極的に参加することにより、夫婦のコミュニケーション頻度が増え、その結果、妻の育児不安やストレスが低下する傾向にあることもわかっています。父親の育児休業取得有無別に見ると（図3）、柔軟さ、視野の広がり、生きがい観などは育児休業を取得した父親のほうが高いという結果も出ています。

図3　育児休業取得有無別の父親の自己評定



出典：菊池ふみ　2006年より筆者作成

3ページへ続く

特集　本当にイクメンは育っているのか

近年のイクメンブームにより、これらのイクメン「効果」も指摘され、育児や子育てに参加したい父親は確実に増えてきていると思います。2010年には育児・介護休業法が改正され、男性が育児休業を取得しやすい環境も整ってきています。しかし、長時間労働の現状が変化せず、また育児に対して職場からのサポートや理解もあまり得られないのであれば、イクメンは増えてこないですし、育っていかないでしょう。今後の日本でイクメン文化を定着させていくためには、ファザーフレンドリーな職場環境の整備とともに家庭内の男女共同参画の重要性をアピールする教育に期待します。

Profile

石井クンツ昌子さん

ワシントン州立大学にて博士号（社会学）取得。カリフォルニア大学社会学部で20年間教鞭を取り、2006年から現職。現在は教育研究評議員、グローバル協力センター長を兼任。国家機関の委員として、内閣府男女共同参画局専門委員、日本学術会議連携委員などを務める。国連家族年10周年記念講演を行い、2008年には国連の「家庭内外における男女間の平等な責任分担」専門家会議に招聘される。日本家族社会学会理事、同学会研究活動委員長。主な研究領域はワーク・ライフ・バランスと家庭内役割分業でJournal of Marriage and Family、『家族社会学研究』、『家計経済研究』などに論文掲載多数。『世界の家族と子育て』、『「婚活」現象の社会学』など著書の分担執筆多数。

「ウィルあいちフェスタ2012」参加イベント募集

～男女共同参画社会の実現に向けた活動をしている団体の交流促進と活性化を応援します～

「ウィルあいちフェスタ2012」では、皆さんが主役です！　講演会や映画上映会、コンサートなど、団体の日頃の活動をPRするチャンス!!　どしどしイベント企画をお寄せください。※イベント企画が採用されると、ウィルあいちの会場使用料が無料となるほか、ウィルプラスやチラシなどでPRします。

開催日時：**平成24年11月17日（土）9:00～16:30**（搬入・搬出時間を含む）
原則として、1イベントにつき、午前（9:00～12:00）または午後（13:00～16:30）のいずれかとなります。
開催場所：ウィルあいち内の各施設〔利用する施設については、団体間で調整させていただきます。〕
応募資格：愛知県内を中心に活動を行っている団体
応募要件：イベントは次の要件を満たすことが必要です。
①男女共同参画意識の向上や、女性の社会参画の促進を図り、男女共同参画社会の実現に資するものであること。
②ウィルあいちへの来館者が自由に入場できるものであること。
③営利活動、特定の宗教の布教活動、又は特定の政党・政策の支援を目的としないものであること。
応募方法：所定の申込書により、下記申し込み先へ持参、郵送又はFAXしてください。
応募締切：**6月28日（木）当日必着**
選定方法：イベント企画内容を審査し実施団体を25団体程度選定
採否の通知：7月下旬に通知
その他：参加負担金として、各団体1企画につき1,000円（ただし、大会議室を利用する場合は2,000円）いただきます。

［ウィルあいちフェスタ］問い合わせ・申込先　公益財団法人あいち男女共同参画財団　企画協働課
電話052-962-2512　FAX052-962-2477　Eメール kikaku@will.pref.aichi.jp

団体紹介

このコーナーでは、県内で活躍する女性団体にスポットを当てて、その活動をご紹介しています。
今回は、地域の子育て支援を続ける「愛知県地域活動連絡協議会」です。

愛知県地域活動連絡協議会（みらい子育てネット・あいち）

加藤愛子会長

活動の柱

長久手市の愛・地球博記念公園内にある、愛知県児童総合センター内に事務局を構える、通称「み子ネット・あいち」。設立は昭和58年と古く、長きに亘り地域での子育て支援を続けるボランティア団体です。団体には大きな活動の柱「5つの柱」

1　親子や世代間の交流・文化活動
2　児童養育に関する研修活動
3　児童事故防止のための活動
4　児童福祉の向上に寄与する活動
5　日曜等児童館利用活動

がありますが、その中で、「親子や世代間の交流・文化活動」を中心に、加藤会長にお伺いします。

今昔、男性の家事参加事情

以前は「ご飯が作れないから家を空けるな」とか「泊まりで出かけるなんて論外」といった男性も見かけましたが、最近の男性は特にこだわりなく、家事や育児をする方が増えたように感じます。会の活動で親子研修会やこどもフェスティバルなどを開催しますが、比率的には女性が多くても、別に気にすることなく、いっしょに楽しんでみえますね。

ただ、ご夫婦だけの家庭と、舅や姑の居る家庭では夫としての立場の違いからか、関わり方に違いも見受けられます。

親から子へ、続いていくもの

私たち地域の活動の中には長く続けているものの一つに、「縄跳び大会」というのがあります。これは、最近めっきり外で遊ぶことの少なくなった子どもたちに対して、「外で運動をさせ、体力づくりの一助にする」というのが目的で、2月の寒い時期に野外で親子そろって縄跳び遊びをするのですが、もう36年続いています。大会は年に1回の開催ですが、実ははじめた頃に子どもで参加していた子が親になり、自分の子どもを連れて参加してくれるんですね。

で、結構夢中になって、楽しんでくれてます。その横には、当時父として連れてきた男性がおじいちゃんになって付いてきていたりします。そんなところを見ると、長く続けることの意味を教えてもらえているような気がします。

地域の子は、みんな我が子

家庭での子育て支援のほかにも、子どもたちを交通事故から守る活動や防犯にも力を入れています。夏休みに子どもたちとマスコット作りをして、秋の交通安全運動や新一年生に配布したり、夏休み前ですが、公園での遊具の点検も行っています。

これは、公園管理者や委託する業者まかせにするのではなく、母親の目で実際に点検して危険なところを見つけて市に報告するもので、ネジの緩みだったり、木の腐りやささくれ、すべり台下の砂のえぐれなど細部に亘ります。また、その際にトイレや死角になる場所も見回るなど、防犯にも注意を払います。

とは言いましても、地域にはたくさんの公園がありますので、地域ごとでグループを組んで、取り組んでいます。

うちの子も他所の子も、地域の子は、みんな我が子。これが、会の基本理念です。

活動の広がりとともに

活動の広がり方は、様々です。親と子やおじいちゃん、おばあちゃんなどの三世代交流や、家庭という垣根を越えた地域でのもの。また、会では子育て支援の講演会も開催していますが、女性の多い会合の場に、男性の参加者も増えつつあります。学校の先生が出席なさったこともありました。そういった広がりは、私たちの活動に新たな力を与えてくれます。

これからも、地域のため、できることを長く続けていこうと思っています。

いくつもの役目を兼任してみえる加藤会長ですが、そのバイタリティーには感心しきりです。

「明日も海外視察の報告会と、午後からは別の会合なのよ」と、こともなげに言われる加藤会長は、取材の疲れも見せず、颯爽と次の仕事へ向かわれました。

問い合わせ先　長久手市茨ケ廻間乙1533-1　愛・地球博記念公園　愛知県児童総合センター内　電話0561-63-1110

フロムあいち

このコーナーでは、愛知県内のお役立ち情報やイベント情報などをお伝えします。
今回は、愛知県の男女共同参画室が作成した男性向けDVDのご紹介です。

男性のためのDVDを作成しました。

～「これからの男の生き方!　イクメン・カジダン・共同メン」～

愛知県では、「イクメン」・「カジダン」というキーワードを切り口に、男女共同参画を男性にも身近なものとして考えていただけるよう、男性向けのDVDを作成しました。

タイトルは「これからの男の生き方! イクメン・カジダン・共同メン」です。

育児や家事に積極的な男性は「イクメン」、「カジダン」と呼ばれていますが、このDVDでは、さらに進んだ男性を「共同メン」と名付けました。

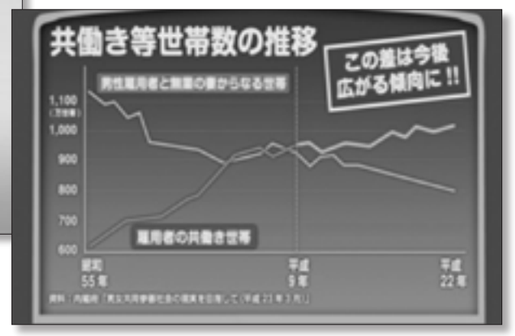
イラストや統計データを活用して、男女共同参画をわかりやすく解説しています。

また、会議や研修など用途に応じてご活用いただけるよう、「本編」、「実践編」と「5分でわかる男女共同参画」の3編構成で、収録時間は全体で約25分となっています。

ウィルあいち（愛知県女性総合センター）情報ライブラリーで貸出をしています。

また、ネットあいちのインターネット情報局（http://www.doga.pref.aichi.jp/ch3/kensei/index.html）でも、DVDの「本編」を配信しています。

男性向けに作成しましたが、女性にも見ていただきたい内容です。集会で、ご家庭で、個人で、どうぞお気軽にご覧ください。



問い合わせ先　愛知県県民生活部社会活動推進課男女共同参画室　電話052-954-6179　http://www.pref.aichi.jp/danjo/
情報ライブラリー　電話052-962-2510　http://www.will.pref.aichi.jp/jyoholibrary/index.html

情報ライブラリーから

図書の紹介

～男の生き方、これから～

イクメン、カジダン、弁当男子、草食系…こんな新しい男性像がクローズアップされることが増えました。旧来の男性の生き方から離れて、自分らしい生き方を探しはじめた男性たちを取り上げた図書をご紹介します。

『「男らしさ」の快楽　ポピュラー文化からみたその実態』　宮台真司ほか編（勁草書房）

変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、男性の多様な生き方を見つめなおす。オーディオ、鉄道、ロック音楽などいくつかのポピュラー文化から事例を引きながら、「男らしさ」を脱ぎ捨て拒絶するのではなく、その現実的な使い方を探る。

『なぜ今どきの男子は眉を整えるのか』　久遠さら著（幻冬舎ルネッサンス）

いまの装飾系男子の美意識と、江戸時代の男たちの美意識には、多くの共通点があった。服装や髪型をきめ、眉や肌の手入れにいそしむ10代後半から20代の青年男子たちに注目し、彼らの深層心理を通して、日本の社会・文化の未来を探る。

『パパ料理のススメ　父親よ大志を抱け』　滝村雅晴著（赤ちゃんとママ社）

21世紀の父親に必要な能力は、料理だ!仕事ばかりの生活から、「パパが料理をすることで家族が幸せになる」世の中づくりをめざす、日本で唯一のパパ料理研究家へ転身した著者が、パパ料理の楽しさを熱く伝える。

ほかにもこんな図書があります。

図書

「草食系男子「お嬢マン」が日本を変える」	牛窪恵著
「仕事と子育て　男たちのワークライフバランス」	中間真一著
「男性の料理に関する意識と行動　「オトコの料理」の実態　2011」	東京ガス都市生活研究所
「男子家事　料理・洗濯・掃除の新メソッド」	阿部絢子監修
「モテるお父さんになる!　父親力をアップさせる3つの法則」	中野博、細谷覚著
「イクメンビギナー必携ノート　仕事も育児も楽しもう」	巷野悟郎総監修
「祖父、ソフリエになる　新米じいじ初めての孫育て」	エガリテ大手前編
「男性介護者100万人へのメッセージ　第1集～第3集」	男性介護者と支援者の全国ネットワーク編
「働きざかり男が介護するとき」	藤本文朗、津止正敏編

ポイントカードをはじめました！

ウィルあいち情報ライブラリーでは、24年2月から「ポイントカード」を発行しています。

※この事業は、指定管理者コングレ・愛知グループの自主事業です。

- 図書・視聴覚資料の貸出点数に応じてポイントを発行します。
  5点以上で1ポイント、10点で2ポイントです。
- 30ポイント・60ポイントで特典グッズを進呈します。
- ポイントカードの有効期限は25年3月31日（日）です。ただし、特典グッズがなくなり次第終了します。
- Wポイントウィークも開催しています!館内のポスター、ホームページ、メールマガジン「ウィル・レター」で開催期間をお知らせしています。

情報ライブラリーでたくさん借りて、ポイントを集めてくださいね!
詳しくは、情報ライブラリーホームページの「最新情報」をご覧ください。
http://www.will.pref.aichi.jp/jyoholibrary/

問い合わせ先　ウィルあいち情報ライブラリー
電話 052-962-2510